

知見の囲炉裏端

いろいろばた 観望庵 Vol.25



高島 秀行



安倍元総理の国葬の是非で、国論は二分した。国会の手続きを踏んでないとか、税金の無駄使いとか、しかし決定打は、統一教会がらみであろうか。

初めは、世論も是認していたが、反対派が段々エスカレートしたのは、かつてのアンポ反対運動に似ている。一部のマスコミとリベラルなる人が騒ぎ出し、それが一般人にも伝搬した。

長期政権の中で、世界をまたに八面六臂の活躍をし、あのトランプをして、アベはどう言っている？ と言わしめたほどの元首がかつていただろうか？ 教育基本法を改定し、道徳教育を正科としたのも安倍総理だった。それがあのようなショッキングな方法で暗殺された。世界中が驚き、嘆き、弔意を表す国葬は当然と思う。

菅前総理の哀悼の辞は人の心を打った。それ以上に、外の一般献花台は、朝から暗くなる迄二万数千人が何時間も並び、静かに献花した。マスコミは、その扱いは小さく、反対デモ、主催者発表二万人以上とのみ言い放映する。昔は、主催者発表二万ならば、警視庁発表 2 千とフォローしたものだった。

反対デモは、被害者が誰かを忘れ、所謂文化人が入っていたのでニュースバリューがあるということだろうか。情けないことである。

国会開会に当たり、野党民主党の元野田首相の哀悼の辞は誠実な氏の人柄に溢れ、安倍さんも喜んでいたに違いない。流石である。

国葬が意に添わないのならば、静かにしていればいい。

吉田元総理ならば、それこそ「ばかやろ！」と一喝するところだろう。

元々の反安倍人は、功績を認めてないとしても、異常な暗殺を目の当たりにし、静かに見送ることはできないのであろうか。忠恕の念、惻隱の情はないのだろうか。

道徳を欠いた、戦後 G H Q 教育のツケかもしれない。